

2023 年度第 3 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答															
<p>Q 1 : 精密機械・ロボットの事業利益について、1～3 月期は 33 億円の計画ですが、3Q までと比較して大きく収益性が改善する理由を教えてください。</p> <p>※各四半期の事業利益と利益率</p> <table border="1" data-bbox="159 475 808 683"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業利益</th> <th>利益率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 月～6 月期実績</td> <td>▲25 億円</td> <td>▲5.2%</td> </tr> <tr> <td>7 月～9 月期実績</td> <td>▲20 億円</td> <td>▲3.9%</td> </tr> <tr> <td>10 月～12 月期実績</td> <td>2 億円</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>1 月～3 月期計画</td> <td>33 億円</td> <td>5.4%</td> </tr> </tbody> </table>		事業利益	利益率	4 月～6 月期実績	▲25 億円	▲5.2%	7 月～9 月期実績	▲20 億円	▲3.9%	10 月～12 月期実績	2 億円	0.5%	1 月～3 月期計画	33 億円	5.4%	<p>A 1 : 主な理由は以下のとおりです。ロボット事業において、</p> <ul style="list-style-type: none"> 半導体分野の市況低迷が 3Q に底を打ち、売上が徐々に回復していること 自動車分野では、大口案件の売上計上が年度末に偏重する傾向があること 中国市場における在庫の適正化に向けた取り組みや固定費等の削減効果が出ること <p>楽観視はできないものの、引き続き各施策に取り組むことで計画の達成を目指します。</p>
	事業利益	利益率														
4 月～6 月期実績	▲25 億円	▲5.2%														
7 月～9 月期実績	▲20 億円	▲3.9%														
10 月～12 月期実績	2 億円	0.5%														
1 月～3 月期計画	33 億円	5.4%														
<p>Q 2 : 航空宇宙システムについて、1～3 月期は前四半期と比較して約 500 億円の増収計画であるにもかかわらず、事業利益は 14 億円の増益に留まる理由を教えてください。</p> <p>※各四半期の売上収益と事業利益</p> <table border="1" data-bbox="159 986 808 1193"> <thead> <tr> <th></th> <th>売上収益</th> <th>事業利益</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 月～6 月期実績</td> <td>802 億円</td> <td>▲46 億円</td> </tr> <tr> <td>7 月～9 月期実績</td> <td>489 億円</td> <td>▲480 億円</td> </tr> <tr> <td>10 月～12 月期実績</td> <td>1,063 億円</td> <td>171 億円</td> </tr> <tr> <td>1 月～3 月期計画</td> <td>1,545 億円</td> <td>185 億円</td> </tr> </tbody> </table>		売上収益	事業利益	4 月～6 月期実績	802 億円	▲46 億円	7 月～9 月期実績	489 億円	▲480 億円	10 月～12 月期実績	1,063 億円	171 億円	1 月～3 月期計画	1,545 億円	185 億円	<p>A 2 : 主な理由は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10～12 月期は売上加重平均レートが 1 ドル 147.68 円と円安の恩恵を大きく受けたのに対し、1～3 月期は為替前提レートを 1 ドル 140 円とやや円高で計画していること 1～3 月期は研究開発費等の期間費用や、平準化されていない航空エンジンプログラム関連費用が偏重する傾向にあること <p>なお、航空エンジン事業については、アフターサービスの価格改定等による採算性向上や、固定費の削減効果等が見込まれますが、それらも織り込んだうえでの計画となっています。</p>
	売上収益	事業利益														
4 月～6 月期実績	802 億円	▲46 億円														
7 月～9 月期実績	489 億円	▲480 億円														
10 月～12 月期実績	1,063 億円	171 億円														
1 月～3 月期計画	1,545 億円	185 億円														
<p>Q 3 : パワースポーツ&エンジンについて、10～12 月期に計上したリコール関連費用の金額を教えてください。</p>	<p>A 3 : 具体的な金額を明示することは差し控えますが、リコール関連費用を除けば 10～12 月期の事業利益率は 10%を超える水準となります。</p>															

2023 年度第 3 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q 4 : パワースポーツ&エンジンについて、来年度(24 年度)の北米二輪および四輪の方向感を教えてください。</p>	<p>A 4 : それぞれの方向感は以下のとおりです。</p> <p><北米二輪> 市場はコロナ禍前の 19 年度を上回る水準で成長・推移しており、来年度以降も順調に推移する見込みです。ただし、機種によって傾向が分かれ、中小型のストリートモデルが堅調な一方で、クルーザーモデルは減少傾向と認識しています。 当社は 23 年度も市場全体の成長率を上回る販売成長率を達成しており、この勢いを来年度も継続できると見えています。</p> <p><北米四輪> 市場は 21 年度をピークに特需が落ち着きましたが、現在も需要は十分底堅く、今後も市場の拡大傾向は継続すると見えています。一時期過少となっていた当社の在庫水準については、レクリエーションモデルは既に適正レベルに回復、ユーティリティモデルについても適正レベルに近づきつつあり、シェアは上昇傾向です。来年度はメキシコ工場での増産が本格化すること、また新機種も市場投入することから、更なるシェアの拡大を目指します。</p>
<p>Q 5 : セグメントごとに来年度の方向感を教えてください。</p>	<p>A 5 : 現時点で来年度計画の策定はできていませんが、定性的な方向感は以下の通りです。</p> <p><航空宇宙システム> PW1100G-JM エンジンの損失があった 23 年度からの反動や、ボーイング 787 の機数増加に加え、防衛省関連の受注・売上増、採算性の向上を見込む</p> <p><車両> 不採算案件である M9 プロジェクトの影響が残る 23 年度と比較して改善が見込まれるものの、国内では低操業が続くため、大幅な収益性の改善は想定せず</p>

2023 年度第 3 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
	<p><エネルギーソリューション&マリン> 船舶海洋事業：中国の合併会社で好採算案件の売上が続く見込み エネルギー事業：分散電源や再生エネルギー向けの調整電源として使用されるガスタービンやガスエンジンの需要向上、データセンターの大型化に伴う非常用発電装置のニーズの高まりによって、好調が継続する見込み プラント事業：環境プラント（ごみ処理施設）が端境期を抜け、売上が増加する局面を迎える見込み</p> <p><精密機械・ロボット> 厳しい事業環境が続く 23 年度と比較して、特にロボット事業では改善が見込まれるものの、精密機械事業については依然中国建設機械市況の不透明さが残る</p> <p><パワースポーツ&エンジン> 北米二輪、欧州二輪については堅調な推移を見込み、オフロード四輪はメキシコ新工場の本格稼働による業績貢献を期待</p>
<p>Q 6 : パワースポーツ&エンジンにおいて、特に販促費が必要な地域・製品およびその理由を教えてください。</p>	<p>Q 6 : 北米の二輪・四輪市場、欧州の二輪市場において特に販促費が必要になっており、一時の半導体や樹脂不足、物流混乱などによる業界全体の在庫不足が解消し、通常の競争環境に戻ったことが理由です。</p>